

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習Ⅱ Application of Day Care forChildren-Ⅱ		2年	集中	該当年次の8月に実施
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	実験実習	選択 (保育士養成課程選択必修)		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
高橋登美子	講義棟3階	適時対応	授業中に指示します	
授業の概要				
<p>私立、または公立の保育所（園）において、児童福祉に関する知識や技術を基に保育計画を立案し、実際の保育に参加し、部分実習や責任実習を行う。その中で、家庭と地域の生活実態にも触れ、子どものいる家庭の福祉について学び、その必要性に対する理解力・判断力を養うと共に、子育て支援についても学ぶ。</p>				
授業の到達目標				
<p>①保育実習Ⅰ、および既に学習した保育や児童福祉に関する教科の知識や技術を基礎として、保育所（園）での保育実践ができるようにする。                  ②子どもの発達と個人差や家庭環境の違いにも目を向けた保育活動を目指すことができるようにする。                  ③目的意識を持って保育活動を立案し、部分実習、責任実習ができるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>保育実習の必要性と保育の実践方法を考えながら、保育所（園）にて11日間（実習時間90時間以上）の実習を行う。実習施設によっては、土曜日・日曜日・祝祭日の実習、また行事や遠足などの円買保育にも参加する。保育活動の立案をし、責任実習を1回以上実施する。</p>				
学習の成果				
<p>①保育施設の機能と役割を考えながら保育実践をすることができる。                  ②子どもの発達と個人差に目を向けた保育活動に取り組み、保育技術を向上することができる。                  ③目的意識を持って保育活動を立案し、子ども理解が深まる責任実習をすることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	≪保育実習の意義・内容・方法を再確認し、各自が決めた実習施設での実習準備を行う≫			
第2回目	1、実習園を各自が決める、電話連絡後、実習届けに内諾をいただく。			
第3回目	2、実習に向けての課題を設定し、各自が実習準備をしていく。			
第4回目	3、実習オリエンテーションを申し出て、実習についての諸注意を確認し、施設の考えに基づいた実習準備に取り組む。			
第5回目	≪保育全般に参加し、保育技術を習得する≫			
第6回目	1、見学の際の視点に基づき、保育の実際を理解する。			

第7回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の沿革、保育方針を知る。</li> <li>子どもの実態について知る。</li> <li>園の環境を知る。</li> <li>一日の保育の流れを知る。</li> <li>地域の環境について知る。</li> <li>保育の仕事を理解する。</li> </ul>		
第8回目	2、参加実習の際の視点に基づき、自分の保育観を見出しながら取り組む		
第9回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>配属されたクラスの保育の考えを理解し、指導計画に沿った準備を手伝いながら指導の方法を学ぶ。</li> <li>保育のねらいを理解して、教材研究の方法を学ぶ。</li> <li>環境の具体的な方法や再構成の仕方を学ぶ。</li> </ul>		
第10回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの活動を注意深く捉え、保育者の援助や指導の仕方を学ぶ。</li> <li>参加実習の後半には、1日のある部分を担当し部分実習を行う。</li> </ul>		
第11回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが降園後の保育者の仕事を理解し、環境整備等に積極的に取り組む。</li> <li>保育者の活動を観察したり、自分が実際に行動をする中での疑問点を積極的に質問する。</li> </ul>		
第12回目	3、保育活動を立案し、指導計画を作成する。		
第13回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的なねらいを立てる。</li> <li>保育形態を決める。</li> <li>保育の流れ、時間配分を決める。</li> <li>保育の導入、展開、まとめの一連の流れを考える。</li> <li>園の保育計画、方針に沿って立案する。</li> </ul>		
第14回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案を再考する。</li> <li>副案を考える。</li> <li>子どもの様子、園の決まりを把握する。</li> <li>教材準備をする。</li> </ul>		
第15回目	4、実習反省会を開いていただき、反省・評価を含めた指導を受け、新たな課題を見つける。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		100%	実習施設においての評価基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可に値する。（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや努力を要する、1：努力を要する）
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
保育実習の手引き：佐野短期大学			
履修上の心得・ルール			
保育実習指導Ⅱの授業を必ず履修し、単位修得の成績を得ていること。保育士養成課程必修の科目において、不可の科目や欠時不認定の科目が多数ある場合は、面談の上、実習実施の可否を判断する。実習状況によっては、実習延期や中止も検討する。			